

ゴカイも音を出す： 攻撃行動に伴う発音とそのメカニズム

後藤龍太郎 博士

京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所 助教

日時：7月16日（木） 11:00~12:00

鯨類をはじめとする海生哺乳類や魚類、甲殻類など、水中で発音行動を示す様々な生物が知られている。一方、環形動物（いわゆるゴカイの仲間）は海洋を中心に著しく多様化を遂げた分類群の一つで、生態的にも著しい多様性を示すが、大きな発音が可能な種は知られてこなかった。今回、発表者らは、環形動物の1種キムラハナカゴオトヒメゴカイ (*Leocratides kimuraorum*) が口を使って争う特異な種内闘争（マウスファイティング）の際に、口吻で相手を弾き飛ばす高速攻撃（マウスアタック）とともに単発の大きな音（最大で 157 dB re 1 μ Pa @ 1 m）を出すことを発見した。本発見は、体の大部分が柔らかな構造からなる無脊椎動物であっても瞬間的に大きな水中音を出せることを示した点で新規性が高いと言える。本発表では、発音行動の発見の経緯や発せられる音の特徴、その生成メカニズムについて紹介する。また、自己紹介を兼ねて発表者の行ってきたその他の研究も簡単に紹介する予定である。



世話人：五島 剛太（内線6174）

参加希望者は、五島 (goshima@bio.nagoya-u.ac.jp) まで事前にご連絡ください。

Zoom URLを前日までにお知らせします。

（生命理学の博士前期課程の学生と教員の方は、連絡の必要はありません。NUCTとSlackでURLを連絡します）